

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200327		
法人名	JAライフサポート		
事業所名	グループホーム花＊花		
所在地	〒028-2102岩手県宮古市墓目第3地割15番1		
自己評価作成日	令和6年8月16日	評価結果市町村受理日	令和6年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花好きな方が多く、花壇に力を入れております。日差しが強く、涼しい時間帯を探しながらの作業にはなりますが利用者と職員とで花植えや草取り、剪定等を行っております。花が好きな利用者が多いことを知っている近所の産直さんから、売れ残った切り花を「どうぞ飾ってください」と頂くことも多いです。畑には数種類の野菜を植え、収穫した野菜を使って調理、提供しております。「もっと早く摂れば良かったね」等の様々な意見が聞かれます。ご近所やご家族から果や果物を頂いた際には、どのように食べるのかを相談しながら真剣に処理をする姿が見られます。利用者同士が、協力しあいながら暮らしていることを強く感じる場面が多々あります。利用者の関係性を見守りながら、出来ることを奪ってしまうことのないように職員間で気を付けております。令和5年より、認知症デイサービスを開始しております。見慣れない方々が増えることによって、利用者が不安に思ってしまうのではないかと心配しましたが、すぐに慣れ皆さん穏やかに過ごすことが出来ております。毎日一人一人違う訓練メニューで、歩行訓練や下肢筋力低下防止に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道106号線沿いのバス停留所、郵便局、産直が近くにある静かな住宅地の中にある事業所で、認知症デイサービスが併設されている。系列のグループホームが同じ地区にあり、事業所間での協力体制が整い連携を取り合った運営がなされている。事業所には利用者と職員の努力の賜物とも言える地域でも評判の花壇があり、利用者と近隣住民の笑いの絶えない交流の場となっている。理念に即した職員個々の行動目標の設定、自己評価、振り返りを行うシステムができており、利用者、家族、職員を一つの家族と考える理念を管理者と職員がしっかりと共有し普段の支援に活かしている。利用者が出来ることは何でもやってもらうことを主眼に取り組んでおり、掃除から調理、片づけなど普段家で行っていたことを持続できるよう支援している。キッチンカーを呼び寄せ、バーベキューを楽しみ、回転ずしに出かけるなど、職員のアイデアで企画した行事で利用者と職員のコミュニケーションが図られ、人間関係も良好である。訪問看護ステーションや訪問診療医との連携を図り看取りの対応にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花＊花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度、理念を達成するための目標と取り組みを個人で決め、毎月自己評価をしながら振り返りをしております。年度末に管理者と1年間の振り返りを行い、理念を共有しております。	事業所が理念とする「大家族」は、利用者が穏やかに暮らすこと、家族が安心して預けることができ、職員も笑顔になれる職場環境を包含し、利用者、家族、職員を一つの家族と位置づけるものである。毎年職員は個々に「個人目標達成計画」を作成し、毎月具体的な取り組みを振り返り、自己評価して業務の改善を図っている。年度末には管理者と職員が面談し、1年間の振り返りを行い翌年に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の産直に職員と利用者が買い物に出かけております。産直の方が、売れ残った切り花をわざわざ届けてくれたりと気にかけて頂いていることを嬉しく思っております。	近所の方が、事業所を象徴する花壇を見に来て、気軽に挨拶や声をかけてくれる。近隣の産直から花をいただいたり、普段の生活の中で地域とつながっている。自治会にも加入し、敬老会やお祭りへ参加し、文化祭も見学している。今年、事業所園庭にて小学生が太鼓を披露してくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練に地域の方のご協力もいただき、利用者と関わっていただいております。運営推進会議や散歩中に会うご近所の方と利用者が会話できるように心掛けております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、コロナが発生した場合には書面開催としております。行政、地域包括支援センター、訪問看護師、区長、近隣住民の方々に参加いただいております。面会等をどの段階でゆるくしているのか等、他施設の状況を知ることにも出来ております。	自治会区長、宮古市介護保険課、地域包括支援センター、訪問看護支援センターを委員として2カ月に1回会議を開催し、利用者の状況や行事、要望相談状況等について報告し、事業所に対する委員の理解に繋がっている。	事業所の花壇を介した地域住民との関係が良好であることから、運営推進会議を事業所を知ってもらう良い機会と捉え、隣人や民生委員、産直職員、利用者や家族の参加等を検討し、報告だけでなく、地域の情報の収集や事業所を周知する機会になるよう検討することを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からは運営推進委員として参加していただき、意見や助言、アドバイスを頂いております。	何かあればすぐに、市から防災情報の連絡が電話である。要介護認定申請やマイナンバーカード作成など様々な相談にも応じていただき、連携が図られている。市の担当課職員が運営推進会議委員として出席し意見や助言を得ている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム花＊花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を定め、身体拘束廃止適正化委員会を2カ月に1回開催しております。花＊花での身体拘束の事例はありませんが、スピーチロック等の日々の業務の中で発生しやすい事例を出し合い防止に努めております。	身体拘束に関する指針を定め、身体拘束廃止適正化委員会を全職員が参加し2カ月毎に開催し、同時に研修会も実施している。スピーチロックは、職員に余裕がなくなることが問題と捉え、コミュニケーションを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部会議の中で高齢者虐待について学んでいます。職員のストレスも関係していることや、不適切なケアの存在も考えられること、介助するにあたって困難なことがあれば改善に向かうよう対策は考えられているかを話し合っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用されている方がおります。月に1度面会され、職員も一緒に不安なことや聞きたいことを確認しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定の際は、専門用語を出来るだけ使わずわかりやすさを心掛け、時間が経っても疑問に思ったことはいつでも聞いてほしいと伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡をする際は、本人の様子を必ず報告しご家族の意向を確認しております。毎月広報誌を発行し、写真をたくさん載せることによって「様子がわかって楽しい」「毎月楽しみにしています」といった感想をご家族からいただいております。	ほとんどの利用者(7人)は会話ができる。家族に電話したい、寝具が欲しいとの希望があれば、一緒に買い物に出かけている。家族へのアンケートは行っていないが、面会時や通院時、電話での連絡時(月1回は必ず)に意見や要望を伺い、業務に反映させている。家族からは安否確認、衣類交換や外泊の要望(2人)があり対応している。広報誌「花＊花」は家族からも好評で家族の安心感に繋がっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花＊花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や内部会議の際に、職員の意見を聞くようにしている。職員から出た意見は、一旦実践してみることを大事にしている。介護経験の長い職員は柔軟に、短い職員は試してみることを大切に、遠慮せず意見を出せる雰囲気作りを心掛けている。	職員会議は職員の提案で夜(19時から20時)に全職員が参加して行っている。落ち着いた時間で行われており、経験年数の長短に関わらず話しやすい雰囲気のなかで、利用者の支援方法などについて活発な意見が交わされている。日常的にも話しやすい雰囲気が育まれ、遠慮せずに意見が言える環境にある。職員との個人面談は年1回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は可能な限り受け入れております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	心肺蘇生法やAED研修、食事介助・口腔ケア等の内外の研修に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加することにより、他施設職員と交流の機会を持つことが出来ております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中からも、困りごとや不安ごとを引き出すようにしております。他者のいない入浴時やトイレ使用時などに本音が出て、本音が出たことにより一気に解決することもあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さなことでも疑問に思ったことや不安なことは遠慮なく聞いてほしいと伝えております。入居したばかりで落ち着かない場合は、慣れるまでの間ご家族に電話で対応していただくこともあります。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花＊花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内部会議の中で高齢者虐待について学んでいます。職員のストレスも関係していることや、不適切なケアの存在も考えられること、介助するにあたって困難なことがあれば改善に向かうよう対策は考えられているかを話し合っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	息子や娘、時には孫になったりとその瞬間を楽しんでいただけるように心掛けております。人生の先輩として、職員が利用者に相談するような場面も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画の説明時には、ご家族にご協力いただきたい内容を説明し、職員とご家族が共にあることを理解していただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前独居だった方を心配され、ご近所の方が面会に来られています。庭の木を切ってあげたい、水道は止めてあるのか等、ご本人に確認に来られます。	ほとんどの家族は面会に月1回は来所しており、その都度お小遣いの心配をし、衣類の交換や身の回りの整理をしている。なかなか面会に来れない家族の方(1人)は小包の中に必ず返信用はがきを入れてくれる。通院の帰りに利用者の住んでいた場所を巡ったり、出張の床屋さんや移動図書館の運転手さんに読みたい本を頼んだり、慣れ親しんだ方との交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外が暗くなると利用者同士が声を掛け合い、カーテンを閉めて歩く光景が毎日見られます。食器を拭く係、棚に片付ける係が自然に出来上がっております。干してある洗濯物を取り込み、名前を見ながら振り分けてくださる方もおられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されそのまま退所になられた方のご家族が、本人の状況等を知らせにいらっしゃることがあります。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム花＊花

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切にしております。改めて「本人の思い」等の質問をするよりも、職員や他利用者との会話の中から希望や思いが伝わって来ることが多いです。	ほとんどの利用者(7人)は会話することができる。担当制の下で職員は、日常の会話から希望や思いを汲み取っており、利用者と二人になったときや入浴時のリラックスした時などに、ちょっとした会話やしぐさから思いや意向を汲み取るようにしている。その内容は連絡ノートに記録し職員間で共有し業務に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ、自宅で過ごされていたように過ごしていただいております。就寝時間も皆さん別々であり、早めに自室に入り音楽を聴く方、本を読まれる方、テレビを見る方がおられます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気付きを職員間で共有しております。お昼寝以外にも横になって休みたいとの訴えが聞かれたりなど、利用者が一人の時間を過ごすことも大切にしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時の本人とご家族からの聞き取りから始まり、6カ月単位の長期目標、3カ月単位の短期目標を立てている。受け持ち担当制とし、毎月モニタリングを提出し、計画作成者が介護計画の見直しに活かしております。	管理者が入居時に本人及びご家族についてアセスメントを行った上で暫定計画を作成し、1カ月後に見直しを行っている。通常の短期計画は3カ月、長期計画が6カ月で見直しを行っている。モニタリングは毎月担当者が行い管理者がチェックしている。カンファレンスは毎月職員会議の中で行ない、職員間の情報共有もできている。家族や関係者への説明や聞き取りは、管理者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が共有できるよう、小さな変化でも記録することとし、確認した際には職員がサインをすることとしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスが流行し、利用者の通院介助は施設で対応しております。利用者の自宅を取り壊すことになった際には、利用者を自宅へお連れし必要なものを取りに伺いました。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花＊花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、図書館車に来ていただきお好きな本を借りております。出張床屋さんにも来ていただき、希望する方は切っていただきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が入居前からのかかりつけ医を受診しております。可能な限りご家族対応としておりましたが、コロナウイルス蔓延時に施設対応に切り替えております。コロナウイルスが落ち着いてからは、ご家族へ受診のお願いをしておりますが8名の方が施設での対応となっております。	家族が付き添った受診は1人のみで、あとの8人は事業所が対応している。訪問診療は看取りの時だけとしている。利用者個々に受診ノートを作成し、家族に渡して医師に報告し、帰路に受診結果を伺っている。訪問看護は週2日としている。歯科通院者はいないが、口腔ケアや歯磨きなどについて職場研修で取り組むことも検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等を記録し、訪問看護師の訪問日に報告、相談をしております。緊急時には、電話連絡をし、指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の医師の説明はご家族と一緒に聞き、お互い理解したうえで進めております。入院中は医療機関と連絡を取りつつ、ご家族の気持ちも確認しながら退院に向けて進めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を、入居時にご家族に説明しております。都度、ご家族の気持ちは変化していくためタイミングをみながら意向の確認をしております。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に重要事項説明書で説明している。重度化した場合には「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき詳細に説明している。家族から看取り希望は多いが、看取りについてあまり理解していないため、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、看取り医と協力して説明し家族の理解に努めている。訪問看護ステーションは24時間対応で、職員を支えている。これまで看取りは3回である。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花＊花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を、都度訪問看護師より受けております。消防署からAED講習も受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定訓練と水害時の訓練を年2回行っております。災害に備え、法人内施設の「ひきめの森」分と合わせ4日分の飲料水、食料、備品等を備蓄しております。第一避難場所はコミュニティセンターになっていますが、状況を見て対応していきます。	年2回夜間想定火災避難訓練と水害時の訓練を消防署立会いで実施している。ハザードマップでは浸水対象区域にあり、新里コミュニティセンターが避難場所となっている。地域との協定は結んでいないが、今年度は近所の方々の参加を得て避難訓練を実施した。備蓄は系列の「ひきめの森」と合わせ4日分の食糧等を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかりと名前を呼ぶことを大切にしております。居室への入室は、本人に確認しております。話の内容によっては、居室へ移動したり、一人のタイミングで声を掛けるように心掛けております。	利用者は「さん」付けで呼んでいる。花づくりや編み物、畑作業など利用者の得意な事を大切に、その人らしく生活できるよう支援している。利用者がやりたいことや得意なことをケアプランに掲げ、利用者一人一人の生きがいや誇りを尊重したケアに努めている。排泄を失敗した際には、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には、本人の希望を聞いて出来る範囲で対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花壇や畑が気になるようであれば一緒に外へ出て眺めております。「寒いから日に当たりたい」と訴える方には、一緒に日向ぼっこをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、自ら服を選んでいただいております。「こんなズボンが欲しい」等の訴えに、代わりに職員が購入してくることもありました。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム花＊花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を月に1度提供しております。畑でとれた野菜を使って漬物を漬けたり、梅シロップを作ったりしております。食後には「私が洗うわ」と自ら席を立てて来る利用者もあり、誘われるように食器を拭いたり片付けたりする利用者もみられます。	献立は栄養士（介護員）が作成し、収穫した野菜や近所からの差し入れの物を利用して、利用者と一緒に調理に携わり片づけまで行っている。今年は梅シロップを漬けてサイダー割にし好評であった。季節ごとの行事に合わせ、お盆や正月にはお酒をつけたり屋外でバーベキューをしたりと、工夫しながら食事を提供している。外食を企画したりキッチンカーを呼んだり、利用者が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人提供する食事が違います。日によって「少なくしてほしい」等の訴えにも対応しております。一口大に切って提供する方が2名いらっしゃいます。梅干しが食べたい、唐揚げが食べたいといった個人の希望も聞いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には自ら移動し、口腔ケアを行える方が5名いらっしゃいます。皆さん必ず口腔ケアを行っています。義歯がなく、自らもケアができない方はシート等を使って清潔を保っております。歯ブラシやコップなども汚れがないか確認し、必要時には交換をしております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段オムツを使用している利用者も、タイミングを見ながら排便時にはトイレに座っていただき排泄されています。夜間はオムツ、日中はリハビリパンツを使用している方もいらっしゃいます。	利用者一人一人の力や排泄のパターンを排泄表でチェックし、職員で共有を図りながら排泄の自立に向けて取り組んでいる。3名が夜間のみポータブルトイレを使用している。現在は2名が布パンツを使用し、リハビリパンツが6名、紙オムツが1名となっており、昨年度から1名が紙オムツからリハビリパンツ使用に代わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、ご家族と相談しながら乳酸飲料を購入し、毎朝飲まれております。ご希望で牛乳を常にかい置きし、好きな時に飲まれている方もいらっしゃいます。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム花＊花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のお誘い時に「今日は入りたくないな」「明日にすっかな」等の返事が聞かれた場合には、無理せず日を改めております。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望や体調等に応じて調整している。着替え準備から更衣まで1時間弱を要し1日3、4人が入浴している。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯などでゆっくり楽しんで入れるよう工夫している。リラックスした雰囲気の中、職員との会話を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんと同じ空間で長時間過ごされることにストレスを感じる利用者へは、無理せず居室にて過ごせるよう声を掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等が分かるように、薬情報をすぐに確認できるようにしております。薬が変更になった際は、訪問看護師への報告、ノートへの記録で情報を共有しております。何のために飲んでいる薬なのか気になる利用者については、心配にならない程度の説明をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事得意な方は、準備が始まる時間を分かっており自らエプロンを身に付け、職員と一緒に取り掛かっております。夕方には数名の利用者が洗濯物が乾いたかの確認をして歩いております。皆さんでたたみ、記名を見ながら分けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「建物の周りを散歩してきます」と職員に伝えることが出来る利用者がおられます。一人で自由に歩きたい様子が見られるため、職員はついて歩かずに見守っております。お盆やご家族の帰省時に、自宅へ泊まりに行かれる方もおられます。	日頃から近所を散歩したり花壇や畑づくりをしたりと、利用者の希望に沿って支援している。季節ごとに花見や紅葉狩りにドライブ等に出かけ楽しんでいる。毎月ほとんどの家族が面会に来て、利用者は家族と一緒に外出や外食を楽しんでいる。毎月、外泊される方もいるが、家族が帰省するお盆やお正月に、自宅へ泊まりに行かれる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度の現金を管理されている方がおられます。近くの産直で、好きなおやつを購入されております。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム花＊花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	教え子から手紙が届き返事を書いたり、遠方にお住いの娘さんからお荷物が届きお礼の電話をしたりとやり取りがあります。ハガキを買ってきてほしいと訴えがあったり、手紙の内容についての相談を受けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間の廊下に、センサーで灯る柔らかい光を設置しました。利用者にとって夜間の電気は、もったいない、消してほしいとの訴えが聞かれ、刺激の少ない光に変えております。	利用者から夜間廊下の電気がもったいないので消してほしいとの声があり、安全性を考慮し調光等に配慮してセンサーライトを設置している。廊下、食堂にはエアコンがあり床暖房を設置している。季節ごとの飾り付けがなされ、心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自ら居室で過ごされているような場合には、無理にお誘いせず自由に過ごしていただくように心掛けております。昼食後にはお昼寝の時間を設けており、寝ないと話されていた利用者も「静かで一ね」「横になると楽だ」と話されることが多いです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具の配置など、自由に居室を作っただいてしております。自宅から大きな鏡を持参されている方、ご家族の写真を飾っている方等がいらっしゃいます。	馴染みのある写真や作品が飾られ、それぞれの利用者が居心地が良いよう配慮されている。夏の暑い日は通気に配慮し各部屋の窓を全開し、温度計を設置して快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夕方になると施設内のカーテンを閉めて歩く方、洗濯物が乾いたか触れて確認する方、植物にお水をあげる方、「何か手伝うことある？」と台所を覗く方等がいらっしゃいます。転倒等のリスクはありますが、周囲の環境を整えながら、危険のない範囲内で過ごしていただいております。		